

22 医療社会福祉部



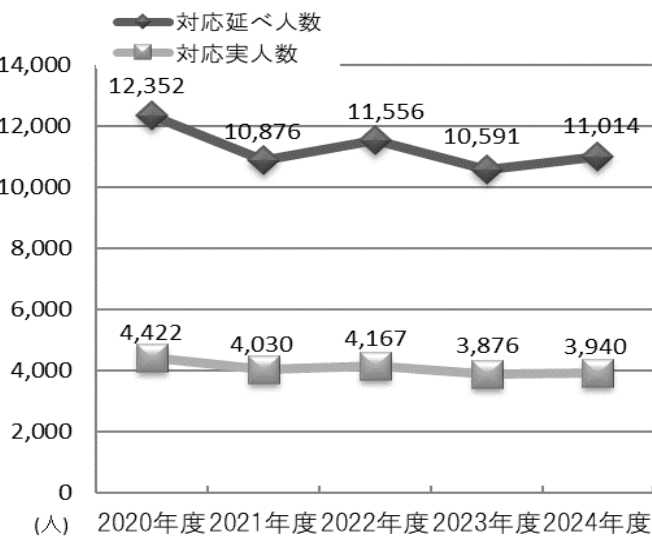
医療社会福祉部には、社会福祉士や精神保健福祉士の資格をもつソーシャルワーカーが10名在籍し、患者さんが抱える療養中の様々な課題への支援を行なっている。また、がん相談支援センターや認知症疾患医療センターにソーシャルワーカー各1名を配置し、専門の相談支援を実施している。

支援内容は、転院や在宅サービス調整などの退院支援、訪問診療や緩和ケア病院等の受診・受療援助のほか、経済的問題、育児・介護や家族関係に関わる支援、就学・就労等の社会復帰支援など多岐にわたる。

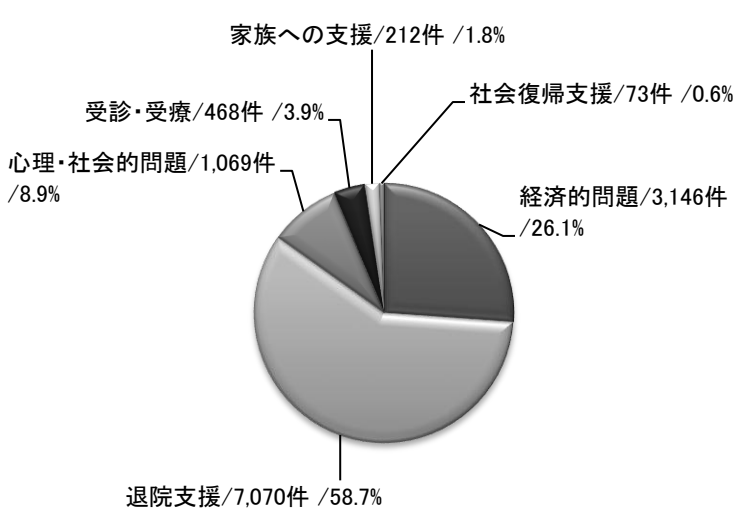
対応実人数・延べ人数は、前年度と比べ若干増加しているものの、この数年で大きな変化は見られない（22-1）。支援内容の構成比率は、例年と変わらず退院支援の割合が最も大きい（22-2）。退院支援の割合は年々徐々に大きくなっており、2013年度は4,033件（29.9%）、2014年度は4,664件（43.4%）だったが、2024年度は7,070件（58.7%）とこれまでで最も大きくなっている。要因として、この期間、早い段階にソーシャルワーカーが救命救急センターやSCU病棟の退院支援担当となったことに始まり、退院困難な要因を有する患者さんのスクリーニング、入退院支援加算の算定、病棟カンファレンスへの参加や全病棟担当制の開始など、段階的に院内の退院支援システムが整備されたことで、介入件数や退院支援業務が増加したことによる。また、身寄りがいない、経済的困窮など、社会的な問題を抱える患者さんも増加傾向にあり、退院支援において解決すべき課題が複雑かつ多様化していることも影響していると思われる。診療科別では、例年通り脳神経外科の対応延べ人数が最も多く、全診療科の3割を占める（22-3）。

社会情勢や医療制度の変化に伴い、ソーシャルワーカーに求められる役割も変化する。今後も引き続き迅速に幅広い対応ができるよう支援の質を高め、他職種・他機関と協働しながら、相談支援・退院支援体制を強化することで患者さんが安心して医療を受けられるよう努めたい。

22-1 対応人数の年度別推移



22-2 2024年度支援内容の構成比率(合計12,038件／対応述べ件数)



22-3 2024年度 診療科別・対応延べ人数

区	分	件数	構成比率 (%)	区	分	件数	構成比率 (%)
循環器内科		817	7.4	心臓血管外科		262	2.4
血液内科		1,159	10.5	呼吸器外科		349	3.2
アレルギー・リウマチ内科		47	0.4	整形外科		26	0.2
糖尿病・内分泌・代謝内科		7	0.1	形成外科		5	0.05
肝・胆・膵内科		31	0.3	脳神経外科		3,562	32.3
消化管内科		191	1.7	皮膚科		9	0.08
呼吸器内科		205	1.9	泌尿器科		65	0.6
脳神経内科		284	2.6	産科婦人科		430	3.9
腎・透析内科		112	1.0	眼科		81	0.7
小児科 / NICU		427	3.9	耳鼻咽喉科・頭頸部外科		614	5.6
肝・胆・膵外科		6	0.1	放射線科		1	0.01
小児外科		24	0.2	歯科口腔外科		168	1.5
上部消化管外科		5	0.05	麻酔科・疼痛制御科		30	0.3
下部消化管外科		916	8.3	救命救急センター		928	8.4
炎症性腸疾患外科		146	1.3	精神科神経科		12	0.1
乳腺・内分泌外科		36	0.3	その他		59	0.5
				合計		11,014	100.0